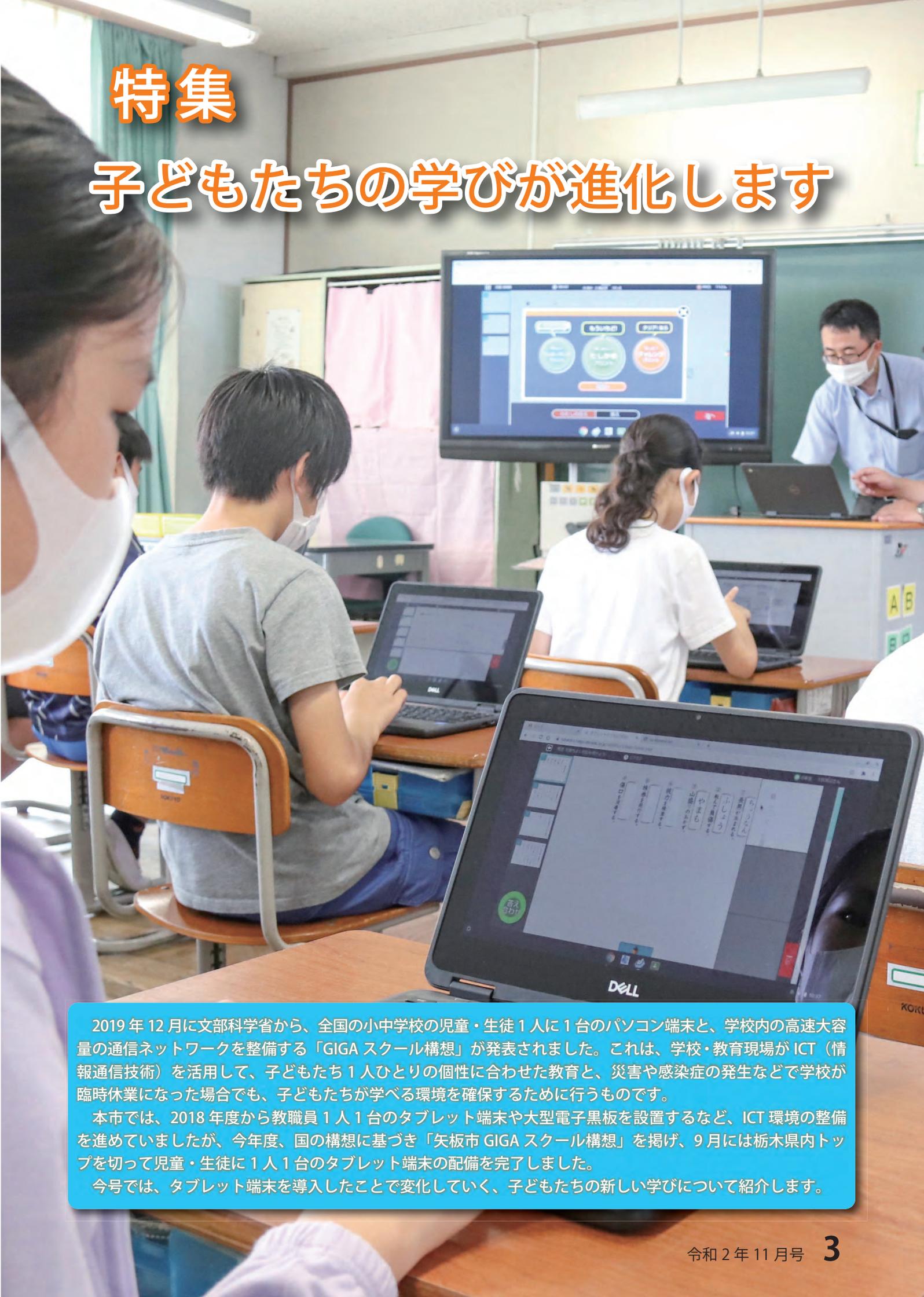


特集

子どもたちの学びが進化します



2019年12月に文部科学省から、全国の小中学校の児童・生徒1人に1台のパソコン端末と、学校内の高速大容量の通信ネットワークを整備する「GIGAスクール構想」が発表されました。これは、学校・教育現場がICT（情報通信技術）を活用して、子どもたち1人ひとりの個性に合わせた教育と、災害や感染症の発生などで学校が臨時休業になった場合でも、子どもたちが学べる環境を確保するために行うものです。

本市では、2018年度から教職員1人1台のタブレット端末や大型電子黒板を設置するなど、ICT環境の整備を進めていましたが、今年度、国の構想に基づき「矢板市GIGAスクール構想」を掲げ、9月には栃木県内トップを切って児童・生徒に1人1台のタブレット端末の配備を完了しました。

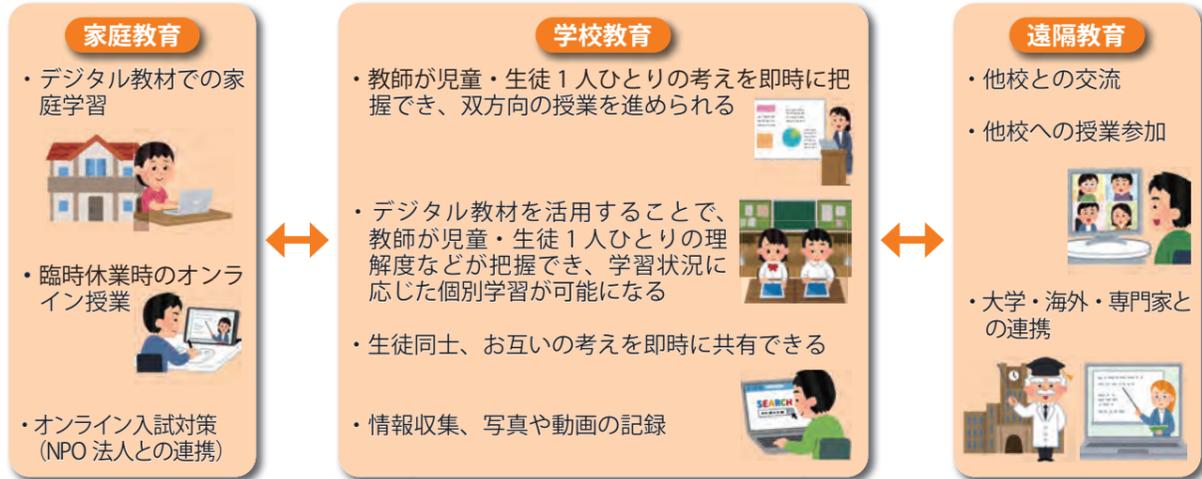
今号では、タブレット端末を導入したことで変化していく、子どもたちの新しい学びについて紹介します。

1人1台のタブレット端末がもたらす学びの変化

児童・生徒に1人1台のタブレット端末を整備をすることで、授業中に1人ひとりの反応を把握しながら双方向の授業が展開できることや、それぞれの子どもの理解度に応じた個別学習が可能になるなど、よりきめ細やかな指導ができるようになります。

またオンライン機能によって、家庭での学習や遠隔地との交流ができるようになります。

タブレット端末がもたらす学びの変化(イメージ)



矢板市 ICT 活用調査研究会とは

タブレット端末の配備は、教職員の力も最大限に引き出すと期待されています。本市では、教職員への1人1台タブレット端末の配備に合わせて、教職員で構成する「矢板市 ICT 活用調査研究会 (発足時は、タブレット端末活用調査研究会)」を発足し、授業でのタブレット端末の活用方法など、これからの ICT 教育について研究を行っています。

矢板市 ICT 活用調査研究会メンバーの声



矢板小6年2組担任
竹川 悠史 先生

従来の授業は、手を挙げて考えを発表するのが一般的で、手を挙げるのが苦手な子の考えは周りに伝わりづらかったです。

授業でタブレット端末を活用すると、各自が入力した内容がすぐに画面に映し出されるので、子どもたち同士で考えの共有がしやすくなり、友達の意見を参考に自分の考えを深められるようになったと思います。

今後も ICT 環境が進み、オンラインでの交流が増えると思いますが、タブレット端末をそのツールの1つとして上手な使い方ができるように教えていくとともに、Face To Face の大切さも伝えていきたいと思っています。



片岡中3年2組担任
樋山 貴洋 先生

これからは ICT ならではの取り組みとして、タブレット端末を活用した他校とのオンライン交流により、生徒同士のコミュニケーションを深めたり、授業の活性化につなげたりしていきたいと考えています。

また、今年度は残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響で海外派遣事業が中止になりましたが、海外の生徒との国際交流や、高校や大学との連携などさまざまな活用が考えられると思います。

授業にタブレット端末を取り入れることで、生徒はこれまで以上に興味をもって受講してくれていますが、操作の楽しさだけでなく、情報を正しく使うための知識や判断力についても教えていきたいと思っています。



ICT 教育に関するトピックス

① 栃木県内初!! 1人1台端末

9月18日に東小学校で、授業での運用開始を記念してオープニングセレモニーが行われました。セレモニーでは、クラス全員でカウントダウンを行い、一斉に各自のタブレット端末を起動させ、デジタル教材「タブレットドリル」での学習を行いました。

授業を受けた子どもたちは「思ったより使いやすくあっという間に時間が過ぎてしまった。これからはもっと楽しく勉強ができそう」と話してくれました。



② 全国初!! 学校電子図書館*

「ともなりライブラリー」の概要

子どもの読書活動の推進と新型コロナウイルス感染症対策を目的に導入されました。

インターネット環境があればタブレット端末や家庭にあるパソコンなどを使って好きな時に電子書籍の閲覧をすることができます。今年度末までに3,000冊の蔵書を予定しています。* (株)図書館流通センター調べ (令和2年9月9日時点)



10月7日に片岡小学校で、公立学校では全国初となる学校電子図書館「ともなりライブラリー」のオープニングセレモニーが行われました。セレモニーには、ライブラリーの館長を務める「ともなりくん」がサプライズで登場し、子どもたちと一緒にタブレット端末を使って動く絵本を鑑賞しました。子どもたちは「たくさん本があるので、いろいろ読んでみたい」と話してくれました。



学校の「スタンダード」も変わりつつあります

今年度から始まった新しい学習指導要領では、学校で学んだことが子どもたちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会がどんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を共に創っていききたい。との願いが込められています。

これからの時代を生きる子どもたちにとっては、タブレット端末は鉛筆やノートと並ぶ「必需品」であり、1人1台の端末環境は、令和時代における学校の「スタンダード」になっていきます。これまでの教育実践の蓄積と最先端の ICT 教育が取り入れられることで、これからの学校教育は更に変わりつつあります。

